

乾杯のマナー



ちょっとドレスアップして乾杯!
仙台の迎賓館と言われたリストランテ パドリーノ・デル・ショーザン(休業中)

Minaと皆で “omotenashi” マナー生活!

第84回



ながくぼ みな
長久保 美奈

(有)ミナ・コーポレーション
代表取締役
& マナーコンサルタント

Profile

東北学院大学英文科卒。(株)JAL国際線で世界21カ国を乗務後、米ワシントンDCに居住。大使館関連のサークル等で国際基準のマナーを学ぶ。日本帰国後に仙台で起業し独自の視点でファーストクラスの接客術、マナーリングを確立。日本では法人企業、医療機関、大学等で年間300を超える講演や研修の講師としてトップレベルの接客を指導。Mrs.Global.Earth2021 本部マナー・ディレクター、東北エリア統括。仙台市在住。 [ホームページ www.mina-corp.com](http://www.mina-corp.com)

ワクチン接種が進み、経済が本格的に再開している国も多くなっていますね。久しぶりに「乾杯!」の声があちこちから聞こえているのではないのでしょうか。私たちの住んでいる国でもその日が待たれます。乾杯の起源については、飲み物が相手の器に飛ぶくらい勢いよく当てて、お互いにそれを飲み干すことで毒が入っていないことを証明していたとする説があります。

さて乾杯にもマナーがあります。唱和のあと直接合わせて良いのはビールジョッキです。それに対してシャンパンやワインの場合は、グラスを少し持ち上げるのがマナー。また、目上の人よりも下にグラスの位置を差し出すのも敬意の表し方です。国によっては乾杯の音が魔除けになると信じられていて、わざとグラスをぶつけ合うところもあります。ただし割れないようにグラスの丸い部分をそっとあてるようにする気づかいが必要です。

ちなみに、イタリアではウェイターが誤ってグラスを割ってしまった時にお客様が拍手をする習慣があるのですが、不運を吹き飛ばそうとする大らかさを感じますね。クシヤミをした人にも似ています(神のご加護がありますようにという意味で)。日本ではウェイターが「失礼いたしました」と謝罪してもお客様側はシーンとしているのが普通なので、国によって文化が違うことを実感する場面です。



右/ドイツのモーゼルワインはツムヴォール!で乾杯
左/ドイツのビール、PAULANERはプロースト!で乾杯



(チンチン)も一般的で、グラスの当たる音を表しています。ドイツでは場面によって異なるProse(プロースト)はビールの乾杯に、Zum Wohl(ツムヴォール)はワインなどを飲む際に使います。お料理に合わせて言語を変えるのもお洒落ですね。

Mina

※ Toast: 乾杯の意味をもつようになったのは、西欧では昔、ワインに焼いたパンを入れて祝杯をあげたため。乾杯の首頭を取る人のことは Toaster (トースター) といいます。